

企画展



竹

日本の美

2021年
1月5日(火) -
1月31日(日)

開館時間:午前10時~午後5時(入館は午後4時半まで)
休館日:月曜日(但し、11日(月・祝)は開館、翌12日(火)は休館)
観覧料:一般 1,200円・高大生 700円・小中生 500円
※20名様以上の団体は一般 1,000円、高大生600円、小中生400円
※土曜日は高校生以下入館無料
主催:徳川美術館・名古屋市蓬左文庫・毎日新聞社
後援:一般財団法人 毎日書道会
協力:名古屋市交通局

徳川美術館

THE TOKUGAWA ART MUSEUM
TEL (052)935-6262 FAX (052)935-6261

蓬左文庫

HOSA LIBRARY CITY OF NAGOYA
TEL (052)935-2173 FAX (052)935-2174

〒461-0023 名古屋市東区徳川町

Thematic Exhibition

Bamboo

The Essence of Japanese Aesthetics

竹

日本の美

征矢 徳川宗睦(尾張家9代)所用
江戸時代 18世紀

四季を通じて青緑を保ち、真っ直ぐに育つ竹は、清らかさや繁栄の象徴と考えられてきました。特に中国では、寒中でも緑を保つ松や、花を咲かせる梅とともに、高潔さの象徴である「歳寒三友^{さいかんさんゆう}」の一つとして愛されました。日本では、櫛などととも神事で用いられる一方で、『竹取物語』をはじめとする文学作品にも登場します。高い強度と柔軟性をあわせ持ち、環境によって色・姿を変える竹は、古くから現代にいたるまで、生活のなかの様々な工芸品に用いられ、しばしば絵画や工芸品のモチーフにもなっています。日本人にとって最も身近な植物の一つと言えるでしょう。

本展では、竹にまつわるさまざまな作品から、竹とともに育まれた日本の美意識を探ります。



墨竹図風炉先屏風 狩野常信筆 江戸時代 17-18世紀



竹取物語図 田中訥言筆 江戸時代 19世紀 個人蔵



志野竹の子文筒茶碗 歌銘 玉川
桃山時代 16-17世紀 岡谷家寄贈



竹茶約 銘 虫喰 伝千利休作 桃山時代 16世紀

イベント

※新型コロナウイルス感染の拡大状況によっては中止となる場合があります。

関連展示

「東海毎日新春選抜書展」

会期 1月5日(火)～1月31日(日)

会場 西ロビーおよび本館前スペース

※入館者見学自由(入館料別途要)

新春揮毫

毎日書道展審査会員 川崎尚麗氏

日時 1月5日(火) 午後2時～

定員 40名 ※入館者見学自由(入館料別途要)

次回予告



有職雛



張州雜志卷72 津島天王祭図

特別展「尾張徳川家の雛まつり」

企画展「尾張の百科事典-御秘本『張州雜志』-」

2月6日(土)～4月4日(日)

担当学芸員の見どころガイド

日時 1月17日(日) 午後1時～(30分程度)

会場 講堂

定員 60名 ※入館者参加自由(入館料別途要)

土曜講座

「江戸時代に制作された古絵巻模本について」

龍澤 彩(非常勤学芸員・金城学院大学教授)

日時 1月23日(土) 午後1時30分～3時

会場 講堂

定員 60名 ※有料

徳川園催事

寒を遊ぶ

徳川園の冬牡丹

1月2日(土)～2月21日(日)



そのほかの主な展示作品

墨竹図 二幅対の内 右幅 明時代 15-16世紀

竹一重切枝付花生 伝千利休作 桃山時代 16世紀

風竹図 狩野山雪筆 三幅対の内 江戸時代 17世紀 吉田家寄贈

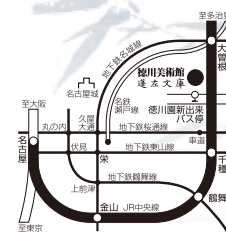
笙 銘 碧桃丸 九条公真命銘 江戸時代 17世紀

竹図衝立 渡辺清筆 江戸時代 19世紀 大脇家寄贈

ほか

新型コロナウイルス感染症対策

- ・マスク着用でご来館下さい。
- ・当館の予防対策の詳細についてはホームページをご覧ください。
- ・展示室内の混雑状況によっては、入場を制限させていただく場合がございます。



〒461-0023 名古屋市東区徳川町

- 基幹バス「徳川園新出来」下車徒歩3分
- メーグル「徳川園・徳川美術館・徳川文庫」下車
- JR中央線「大曾駅」下車南口より徒歩10分



尾張徳川家の歴史を伝える
産業観光 ナゴヤ